

一般質問通告書

佐野市議会議長 様

受付	番号	15
	令和	2年 2月19日
	午前・午後	2時35分

議会名	令和 2 年 第 1 回 佐野市議会定例会		
発言者	議席番号	17 番	岡村 恵子
答弁を求める者 (選択してください)	市長 ・ 副市長 ・ 教育長 ・ 担当部局長		
一般質問時に使用する資料の有無 (選択してください)	あり (資料提示 ・ 資料配付 ・ モニター使用) なし		
大項目 (質問項目) 中項目 (質問細目)	小項目 (具体的な質問内容)		
1、2度と災害をおこさない 河川の復旧・改修と被災者 支援について (1) 堤防決壊の原因について	<p>①秋山川の堤防決壊は大きな被害をもたらした。今後根本的な河川改修を行うためには、個々の決壊場所の原因究明が必要だ。県や専門家と連携して原因究明を行うべきであり、現在どのような方法で原因究明を行っているのか、そして決壊の原因についてどう分析しているのか伺う。</p> <p>②越水したとしても壊れない堤防づくりが重要であり堤防の強化策として専門家の中で、「耐越水堤防工法」が有効だとの声が上がっている。県に対しこの工法を導入することを求めるべきであるが見解を伺う。</p>		
(2) 河川の越水対策について	<p>①河川の越水が起きた原因究明を、県や専門家とどのように究明しているのか伺う。</p> <p>②越水防止のための河川環境管理と防災施設の整備が求められるのではないかと考えるが、市の見解を伺う。</p>		
(3) 被災者支援強化について	<p>①総社市では、西日本豪雨災害時に、「災害対策本部現地出張所」を設置し、被災地に市がテントを張り3名の職員が常駐するなど被災者支援のための</p>		

<p>2、公立の放課後児童クラブの14か所の民営化について</p> <p>(1) 子育てを企業に任せる問題点について</p> <p>(2) 今後の指導員、補助員の処遇について</p>	<p>相談やニーズ調査など市と被災者の顔が見える関係を築き対処した。担当者は「寄り添う気持ち」と述べていた。本市において被災者の声を聞くと市に欠落していたのはこの「寄り添う気持ち」であり、これに始まる具体策ではなかったか。見解を伺う。</p> <p>②栃木市では被災世帯にアンケート調査をおこないまだ困難を抱える世帯の状況をつかんでいる。本市でも同様に調査をおこなうなど実態を把握すべきではないのか。市の見解を伺う。</p> <p>③復興のロードマップが示されたが、災害ボランティア等、3月末で切れるものがある。実態を把握したうえで延長すべきだと考えるが、市の見解を伺う。</p> <p>④災害救助法にもとづく、「生活必需品の供与」について、11月7日に内閣府からの通知で「災害救助法による被服、寝具その他生活必需品の給与又は貸与に関する被災者への周知徹底について」を受け取っていながら、その趣旨にもとづいた対処がなされず遅れたのはなぜか伺う。</p> <p>⑤生活再建支援のためには、市独自の上乘せ助成制度が必要であるが、検討する考えについて伺う。</p> <p>①企業に子育てを任せてしまう市の考えは、指導員の顔が変わり環境が大幅に変わってしまうと同時に、こどもを中心に置いて論議するという観点から後退してしまう事になるのではないかその考えを伺う。</p> <p>①14か所には、多くの指導員、補助員がいるが、今後の処遇が危ぶまれる。シダックスに移行を申しでしなかった人の今後の処遇はどうなっていくのか。</p> <p>②シダックスに移行したときの労働条件として、6か月間は休暇もない状況であるのと同時に、主任支援員と、5時間から8時間勤務の社員以外は、</p>
---	---

<p>3、多胎児育児の支援について</p> <p>(1) 多胎児育児の支援について</p>	<p>指導員の資格を持っていても3か月更新としている。これでは安心して働くことができないのではないか。市の見解を伺う。</p> <p>① 2人以上の赤ちゃんを同時に育てる保護者には、多胎児ならではの身体的、精神的な負担がある。妊娠中から切れ目のない支援が必要であり、本市において支援策を検討すべきと考えるが、見解を伺う。</p>
---	--